

6月7日 年間第 10 主日

キリストの血と体

マルコによる福音書 14 章 12～16 節、22～26 節

¹²除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。¹³そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人について行きなさい。¹⁴その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』¹⁵すると、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために準備をしておきなさい。」¹⁶弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

²²一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」²³また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。²⁴そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。²⁵はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」²⁶一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

他の朗読：出エジプト 24:3～8 詩編 116:12、13、15～18 ヘブライ 9:11～15

Lectio …読む

今日は教会の最も意義深い祝祭の一つ「感謝の祭儀」について考えてみましょう。

本日の朗読はイエスと弟子たちが過越の祭りの準備をするところから始まります。これは今でもユダヤ暦の中で最も重要な日であり、神の守りとエジプトでの奴隷生活から解放されたことを祝う祭日の一つです。

弟子たちは過去に何度も家族と共にこの祭日を祝ったことでしょう。しかしイエスが新たな意味を示された今回の出来事は、一生忘れられないものになったはずです。

過越の祭りを祝う部屋がどのように提供されたのかも興味深いです。この時の弟子たちの思いは記載されていませんが、イエスの指示に従った時、その言葉通りになったということが書かれています。

そして、それ以上の驚きを弟子たちは食事の最中に経験します。イエスはパンを裂き「これはわたしの体である」と言い、杯を皆に渡し「これはわたしの血である。多くの人のために流される神の契約の血」だと言います。

福音書 12 節は過越の小羊の生贖の言及から始まります。本日の旧約聖書の朗読箇所からわかるように、神がモーセやイスラエルの民とシナイ山で交わした契約は動物の血で結ばれていました。(出エジプト 24 章 3～8 節)

この時、イエス自身が過越の小羊となり (ヨハネ 1 章 29 節)、十字架につけられた子の血をもって神は新しい契約を結ばれたのです。(1 コリント 11 章 25 節)

イエスがこの過越の食事でパンとぶどう酒を分ち合ったことにより、「感謝の祭儀」という秘跡が設定されました。それ以来、クリスチャンはこの生贖を覚え、神との新しい契約を祝っています。

Meditatio …黙想する

主の晩餐にまつわる下記の 3 つの聖書箇所を通して「感謝の祭儀」の喜びを新たにしましょう。

マタイ 26 章 17～25 節、ルカ 22 章 7～23 節、Ⅰコリント 11 章 23、34 節

イエスが、パンとぶどう酒を用いご自身の存在を顕わにされた意義を思い起こしましょう。感謝の祭儀にあずかるだけでなく、神や兄弟姉妹と一つになることの大切さを思い起こしましょう。

Oratio …祈る

謙遜と感謝をもって神の前に進み行きましょう。あなたの罪が赦され、神やその民と一つになるためにイエスを送ってくださった神に感謝しましょう。イエスが死と復活を通してなされたすべての業への感謝を深めることが出来るよう神に祈りましょう。

Contemplatio …観想する

ヘブライ 9 章 11～15 節を読み、私たちが犯した悪から解放し、生ける神に仕えることが出来るようにしてくださった“完全な生贄”であるイエスに思いを寄せましょう。